

〔大正六年職員ニ関スル書類庶務掛〕

『写真月報』第二十二卷第五号にも記事が掲載されているが、それによると臨時写真科では材料商の出品も求め、各専門の方面に交渉して展示品を集め、製版科も協力して準備を進め、初日五十人、二日目六百人、二日目千人以上の観覧者があったという。

⑤ 森田亀之助を助教授に起用

大正六年六月三十日、助手（英語および西洋美術史授業担当）であった森田亀之助は助教授に任命された。森田は明治三十九年本校西洋画科卒業後履（無給助手）となり、同四十二年より大正三年までバーナード・リーチのもとで英文美術・文学書や英会話を学んだ。任命関係文書中に次のような事業歴が記されている。

履歴書（事業ノ部）

森田亀之助

- 一 明治四十二年ヨリ大正四年マテ美術新報ノタメニ英文ノ書籍及雑誌ニ依リテ海外藝術界状勢及畫家列傳ヲ寄稿ス
- 一 大正三年ヨリ同四年マテ主トシテアメリカン・アート・ニュースニ依リ美術週報ノ海外消息欄ヲ擔當執筆ス
- 一 明治四十三年及大正三年ノ二回東京美術學校一覽ヲ英譯ス
- 一 大正四年十一月セレクションス・フォア・アート・スチューデント（美術学生用英文教科書）ヲ編纂ス
- 一 大正四年英文ノ書籍及雑誌ニ依リ歐洲畫界最近状勢ヲ報告スルタメ「藝術家ト藝術運動」ト名ツクル著書ヲナス

第三項目の東京美術學校一覽の英訳とは、Tokyo Bijutsu Gakko The Imperial School of Art, Ueno Park. Tokyo, 1910 及び Tokyo Bijutsu Gakko The Tokyo School of Art, Ueno Park, Tokyo, 1915 である。

⑥ 大正六年度入試問題

大正六年四月十六、十七日の『読売新聞』に(上)(下)に分けて掲載されている。

入學試験問題

▲東京美術學校(上)

(豫科、製版、寫眞、師範各科共通の分)

- ▲日本畫科 寫生、『菜の花』（鉛筆畫、毛筆畫の内隨意）
 - ▲西洋畫科 臨寫、石膏製胸像（木炭畫）
 - ▲彫刻科 模作、石膏製顔面（塑造）（以上共通以下各科別）
 - ▲圖案科第一部 寫生、桃の花及黄水仙（毛筆畫鉛筆畫の内隨意）
- 圖案縦一尺、横一尺三寸の菱形内中央に直径六寸の圓を描きたる各形状内に草花アネモニーを以て適宜模様を作るべし（地色共五色のこと）
- ▲圖案科第二部 寫生、『あをき』（鉛筆畫毛筆畫の内隨意）
 - ▲金工、鑄造、漆工科 寫生、『うと』と『くわゐ』（鉛筆畫、毛